

令和5年度 第2回 逗子市健康増進・食育推進計画懇話会 概要

日 時：令和6年3月19日（金）午後2時00分～3時30分

場 所：逗子市役所5階会議室

出席者：

【市民メンバー】 池田 カツエ、村松 雅、渡邊 喬

【関係団体】 中川 晴美（公益財団法人逗子市スポーツ協会）、

山口 忍（食生活改善推進団体若宮会）、

森谷 紀子（逗子市商工会）、

河原林 薫（逗子市立中学校長会）

【アドバイザー】 北岡 英子（湘南鎌倉医療大学 看護学部公衆衛生看護学領域 教授）

駿藤 晶子（神奈川県立保健福祉大学 保健福祉部栄養学科 准教授）

【事務局】 廣末次長、浅野係長、青山副主幹、角田、竹内、武藤

議事概要：

1 開 会

<事務局より挨拶>

- ・健康増進計画と食育推進計画を一体化した新計画が令和5年4月から始動し、5月に第1回懇話会を開催した。10月の食育講演会では駿藤先生に講師を務めていただいた。
- ・令和6年1月に健康増進・食育推進計画担当者会議を新たに設立。当課以外の8課を含め全9課で検討を始めている。
- ・また、今年度特定健診の自己負担を無料とした。受診率は1月末時点で既に4ポイント（受診者数で400人）増加。特定健診対象者が減少する中で、受診者増となっている。
- ・未病センターは今年度から予約なしで利用できるようにし、専門職を常駐させている。利用者数は昨年度の3倍以上となっている。その他、男性料理教室や健康ポイント事業などの健康増進関連事業についても様々な方に参加をいただいている。
- ・本会ではこれらの事業についても、忌憚のないご意見をいただきたいと思う。

2 議 題

【議題】

（1）計画の進行管理について

①担当者会議の報告

<事務局より>

- ・資料「逗子市健康増進・食育推進計画の進行管理のための年次評価について」参照。

「＜1. 担当者会議の設置＞」にあるとおり、市全体として本計画を効果的に推進するために、健康や食育に関わる9課の担当者を集めて、事業の調整や実施状況を共有する体制を整備した。各課が、それぞれ取り組んでいた健康や食育に関する事業を共有し、互いに協力できるものなどを模索することで互いの事業効果を高めると共に、市民にも良い還元ができることを期待した。1月9日（火）に開催したところ、今までそのような情報共有や情報交換の場がなかったため、講師人材の紹介、チラシの配布先検討、事業のテーマが重複していないかの確認など多岐にわたって具体的な確認や共有ができた。また、会議後も担当職員間でグループチャットを作成し、具体的な案件を出してやりとりを続けている。課をまたいだ横のつながりができたと感じている。

＜アドバイザーより＞

- ・担当者会議を新設し、関係各課の理解を得て、実施できたことが素晴らしい。理想として助言はするものの、各課との日程調整や上司の方針などの問題で実現が難しい。全市として取り組む、という姿勢の表れではないか。
- ・こういった取り組みを他自治体に向けてアピールしてほしい。横のつながりの始まりとして重要。計画以外にも連携・発展していくきっかけになるのではないか。

＜アドバイザーより＞

- ・実施するにあたって参考にした他自治体などはあったのか。
→（事務局）特にない。

②年次評価方法

＜事務局より＞

- ・別紙2『『今後取り組むテーマ』の評価軸』参照。本会で、取り組みが効果的に進められているかご意見いただくにあたり、その判断材料となる評価軸を決めた。これは、本計画P.75～77にある3つの「今後取り組むテーマ」に沿った内容について、1年間の取り組みをお伝えして自己評価するので、そのことについて本会で改めて評価をいただきたいと考えている。具体的には、今年度の取り組みを次回5月の懇話会でお示しする。

③評価指標の考え方

＜事務局より＞

- ・別紙3「逗子市健康増進・食育推進計画における評価のための視点」参照。本計画P.75～77にある3つの「今後取り組むテーマ」は、内容が「国保健康課での取り組み」のみになっており、国保健康課以外の視点が抜けていた。この計画は、市全体として進めたいものなので、市民の視点、地域組織・団体の視点、庁内関係課の視点を入れ、それぞれの目標を持って臨んだ方が良く、それぞれの視点をどういった所から参考にするかについて、別紙の枠に記載した。「市民からの視点」は、市民アンケート（別紙4「健康増進食育推進計画進行評価のための市民アンケート」）を通して確認する。「地域組織・

「団体からの視点」は、懇話会の参加団体代表のご意見を参考にする。「庁内関係課からの視点」は、担当者会議にて確認する。この3つの視点を国保健康課にて別紙2の評価軸にまとめて懇話会に諮り、その年の評価にしたいと考えている。

<アドバイザーより>

- ・別紙2『「今後取り組むテーマ」の評価軸』について、こちらは事業ごとの評価か。
→（事務局）事業ごとではなく、テーマごとの評価を想定している。
- ・1つのテーマの中に具体的に複数の事業が含まれるということか。テーマに含まれる複数の事業をまとめて評価するというイメージか。
→（事務局）そうである。以前の助言を踏まえ、テーマごとの評価を想定している。
- ・評価の視点としては、①目的・方法・手段が達成されたかどうかを評価するということか。計画P75～の記載内容をどのように活用するか説明を。
→（事務局）別紙3「逗子市健康増進・食育推進計画における評価のための視点」参照。計画P.75の「手段」を「大目標」として捉え、その目標を達成するために、市民、地域組織・団体、庁内関係課の3つの視点での目標（小目標）を設定。その目標を計画の年次評価を行うための指標とする。
- ・自己評価はどのようにするのか。
→（事務局）資料1下枠に記載のとおり。市民評価は市民アンケートから。地域組織・団体評価は懇話会参加団体のご意見を参考とする。庁内関係課評価は担当者会議から取りまとめる。
- ・評価材料が懇話会に提出され、妥当性などを判断していくということか。
→（事務局）そうである。

<事務局より> ※事務局へ確認

- ・関係団体への評価は市内関係団体へアンケートをとるということか。
→（事務局）懇話会参加団体の意見を参考にする。若宮会・商工会・漁協など。
- ・食に関する内容は例えば若宮会のみ意見が反映されるということか。
→（事務局）すべてを担わせる、というのではなく一意見として参考にする。

<メンバーより>

- ・商工会女性部では、年1回健康講座を実施し、今年度は9月27日に実施した。団体の取り組み全体の中で、計画に関連する内容について回答すればよろしいか。
→（事務局）そうである。

<事務局より> ※事務局へ確認

- ・市民アンケートの実施範囲はどの程度か。
→（事務局）ラジオ体操講座・男性料理教室・出前講座など国保健康課の関連事業で、事業ごとに実施。満足度・理解度・実践可能性の3つの視点。別紙2「評価軸」のアウトカム評価として、そのアンケート結果を反映する。
- ・それだと事業に参加した健康意識の高い人の意見に偏りがちにならないか。健康無関心層

のデータが含まれない懸念がある。健康無関心層へのアンケートも考慮できると良い。

→(事務局) 今後の検討課題。他課との連携や懇話会での助言を通して検討していきたい。

<アドバイザーより>

- ・市の健診や事業などに参加しない人の方が多い。アウトリーチでも手が届きにくい。関係団体の方がそれらの人の情報をご存知なので聞いてみると良い。課題意識がどこにあるのか、どのように対応しているのかなど。市の事業に参加しない人へのアプローチを各関係団体が意識することも重要である。
- ・どこの自治体でも事業に参加する人は同じ顔ぶれになることが多い。現れない人の現状をどのように自治体が把握していくのかは、全国的な課題である。

<メンバーより>

- ・そういう人は住民間でアプローチしても引っ込んでしまう。「私は大丈夫(不要)だ」と。イベントを知らせたり誘っても参加につながらない。「今は大丈夫でも将来大丈夫なのか」という話はしにくい。市の取り組みそのものがもっと浸透していくと良いのではないか。
 - ・様々なイベントが企画されているが、行ってみると想像していたものと違ったということもある。選択しやすい工夫と、参加に至らない人への働きかけ。特に后者は課題である。
- (事務局) 担当者会議では、そういった層にアプローチしている課と連携できるようにしているため、この連携の場を活かしていきたい。

<事務局より> ※事務局へ確認

- ・市民アンケートを、国保健康課の事業だけでなく担当者会議に参加している課の事業でも実施してはどうか。
- (事務局) 他課のアンケートについては、当課作成のアンケートを使用するのではなく、それぞれの課で把握している情報を共有してもらうことで、満足度・理解度・継続可否についての評価に活用することを想定している。

<メンバーより>

- ・市政70周年で市民企画を公募している。市民企画の場などでアンケートの依頼をしたりヒアリングしてはどうか。多くの団体がエントリーしているようなので、全員でなくても啓発活動と捉えて活かすと良いのではないか。

(2) その他(データヘルス計画の進捗について)

<事務局より>

- ・データヘルス計画とは、国民健康保険に加入されている市民への特定健診の結果や、病院などに受診した記録の情報を分析し、市の健康課題を抽出して解決するための計画を立てるというもの。3月末に完成予定。
- ・データヘルス計画に取り組むことで、ひいては市民の健康増進につながっていくため、健康増進・食育推進計画と共に取り組んでいく。

<アドバイザーより>

- ・整理されて分かりやすい。データヘルス計画は国民健康保険の内容だが、介護保険との関係や問題は切っても切れない。在宅で訪問看護を受けている割合など、介護保険に関わる健康課題がどのようなものがあるか、そうした内容も含めて全体像が把握できると、より対策が検討しやすいのではないか。

<メンバーより>

- ・いつもどのようにしたら保健事業への参加が促せるかを考えている。アリーナを利用して人に料理教室を勧めると、多くの人に興味を示し、参加につながることもある。活動している人を誘うのは容易だが、引きこもっている人を誘うのが難しい。体を動かす、外に出る、という点に目を向けさせることが重要だと感じる。「健康寿命と平均寿命の差が、(全国・県内と比較して) 逗子が長い」という話が興味深かった。介護状態にある時間が他と比べて長いという現実を理解できれば、もう少し予防のために外出しようとするのではないか。「(今は) 大丈夫」という人に将来像を認識させるきっかけを作ってほしい。
- ・健康寿命と生涯寿命の差が長いことは、一概に悪いことだとは言えないように思う。「介護が必要になったが、頑張って生きた」という解釈にも捉えられるのではないか。
- ・担当者会議での課を超えたコラボレーションは、是非継続して欲しい。行政は広報や情報提供が苦手だと感じる。一つのイベントをきっかけに、横断的に事業を企画して色々なコラボレーションを検討できると良いのではないか。「人が集まる所に行けば、サテライト市役所のように市の人がいる」という認識が根付くと良いと思う。
- ・市内で居場所作りなどのために定期的にワンコインランチを提供している場がある。会場にはクラフト制作や絵本の読み聞かせなど、ランチをしながら市民交流の場となっている。毎回参加者が増え、顔見知りとの交流を楽しむ人がある。食育とは、食べるのみでなく、人との交流が重要。こうした場がもっと増えたら良いのではないか。「月1回・週1回」など「ここに行けばおいしいご飯が食べられる」と思える場所が必要だと感じている。

<メンバー（関係団体）より>

≪逗子アリーナより≫

- ・逗子アリーナも未病センターとして登録し、市役所と連携している。市役所とアリーナに「INBODY (体組成計)」を導入しており、市役所で測定した人がアリーナでも継続測定でき、健康相談できたり、トレーニングや指導につなげるなど連携している。
- ・令和6年度は「シセイカルテ」を導入する。姿勢を撮影するだけで、姿勢の助言や将来像、改善するための運動の提案などをスマートフォンへ送り、健康への意識付けを図るもの。既に市と連携していくことで進めており、市の健康相談イベントデーで無料体験できる機会や特定保健指導の実施者へ無料体験チケットを渡し、アリーナ利用のきっかけになるような取り組みを進めている。また、男性の料理教室からアリーナ利用を進めてもらい、継続利用につながっている人がある。

≪若宮会より≫

- ・離乳食教室や男性の料理教室などを請け負っている。男性の料理教室は、定年退職後、近所に友人がいなかったり、台所に立ったこともない人などを対象として1クール12人、年間3クール開催中。料理をきっかけに、料理を学ぶだけでなく、一緒に食事をとって仲間づくりのきっかけとなり、その後の交流や外出の機会などにつながっている。

≪逗子市商工会より≫

- ・商工会での健診の結果、市役所の未病センターに行くように指導が入るなど連携を感じている。但し、未病センターに1回行くとそれで終了することが多いことが残念だ。年間通して利用できるように、誕生月の測定や利用勧奨を送るなどしても良いと思う。
- ・国民健康保険と社会保険では、国民健康保険は受診するとお土産がもらえるメリットがあるが、社会保険では毎月健康に関する便りがある。そうした啓発も重要ではないだろうか。
- ・なお、市内では国民健康保険と社会保険で被保険者の割合はどの程度か。
→（事務局）国民健康保険が約20%。社会保険が約60%。75歳以上後期高齢者医療保険が約20%である。

≪逗子市中学校校長会より≫

- ・中学校でも給食が導入された。温かい食事を自分の適量取り分けて食べられ、「おいしい」という声が多く聞かれた。今の児童は、コロナ禍のマスク着用や黙食などを経験しているため、規制が緩和される中で、豊かな経験を増やしていけると良い。
- ・食育の面では、逗子市の給食は地産地消を意識している他、食品に関する説明なども行っている。また、4月に食育授業を学校教育課の管理栄養士に行ってもらい、給食への理解を深めることができた。引き続き連携をお願いしたい。

≪アドバイザーより≫

- ・本会の雰囲気がとても良く、活発に意見が交わされていることが印象的である。市民メンバーには、是非逗子市のインフルエンサーとして継続して発信してもらいたい。
- ・別紙4のアンケートの中で、「⑤本日の内容を継続できそうですか」という設問があることがポイント。「理解できましたか」や「楽しかったですか」で終わるアンケートが多い中、内容を継続していけそうか聞くことで、事業内容の評価につながることを期待される。「理解はできたが、やっていかれるかと聞かれると難しい」という回答が多い事業は、見直しが必要である。回答の傾向を確認することが重要。今後集計結果が出るため、楽しみにしている。
- ・次長の冒頭挨拶で「特定健診の自己負担を0円にしたところ、受診者が増えた」と話があり、印象的だった。特定健診の受診率はどの自治体でも低迷しているが、やはり自己負担金の影響が大きいのだと感じた。逗子市も高齢化が進み、税収が厳しい中で大事な財源を充てるため、効果のあるところへお金をかけてほしい。
- ・また、担当者会議が開催されたことが良かった。今後は健康増進・食育推進に限らず色々な意見が出てくるはずなので、発展していけると良い。意見をどのように活かしていくか

は職員のアンテナが重要。

- ・健康寿命と平均寿命の差は、「元気でいること」「ある程度自立していること」などの啓発であり、課題があっても生活できている人も含まれるため、あくまで統計上の一指標。そこにこだわり過ぎなくても良いだろう。

3 閉会

<事務局より>

- ・特定健診の自己負担を 0 円にしたことで、クリニックの医師などからも気軽に勧めていただけるようになったことも受診率増加の要因かもしれない。昨年度から医師会との意見交換会も設けているため、引き続き医師会とも連携して市民の健康を推進していく。
- ・今年度の開催は 2 回だったが、メールなどで補い、初年度を無事に終えることができた。次回は、5/31（金）14：00 からを予定しているため、引き続きよろしくをお願いしたい。

以上